

看護学専攻
(博士前期課程)

看護学専攻 博士前期課程
専攻共通科目

看護学専攻博士前期課程（令和 5 年度学則） 【専攻共通科目】

（1）高い倫理観と国際的視野

看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

（2）看護・保健領域の高度専門職業人としての知識

看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。

（3）看護・保健領域の高度専門職業人としての技術

看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。

（4）看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。

組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。

（5）課題解決のための広い視野と学際的識見

看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。

（6）研究遂行能力

看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜							
看護専攻共通科目	看護教育学特論	中島 恵美子	2	○		○	○	※	★	★	★	★		
	看護管理学特論	佐藤 澄子	2	○		○	○	※		★	★	★		
	看護研究方法論	大木 幸子	2	○		×	○	※	★				★	★
	コンサルテーション論	浅沼 奈美	2		○	○	○	※	★	★	★	★		
	看護政策学特論	大木 幸子	2		○	×	○		★	★	★	★	★	
	フィジカルアセスメント	加賀谷 晴子	2	○		○	○	※	★	★	★	★		
	病態生理学	岩槻 桜子	2	○		×	○	※		★		★		
	臨床薬理学	西村 伸大	2	○		○	○	※集中	★		★			

※専門看護師教育課程科目の選択必修科目となる。

また、専門看護師教育課程を希望していない学生も履修可能である。

科目名	看護教育学特論	授業コード	23N10011
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	看護管理学特論	授業コード	23N10021
代表教員	佐藤 澄子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	看護研究方法論	授業コード	23N10031
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は 2 単位です</p>		

科目名	コンサルテーション論	授業コード	23N10042
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	看護政策学特論	授業コード	23N10052
代表教員	大木 幸子	担当教員	河原 智江
授業概要	医療・保健・看護に関する制度や政策の決定過程を理解する。さらに、各受講者が自らの実践活動と政策の関連を振り返り、それぞれの専門領域での課題を検討する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>保健・医療・看護に関する政策決定の過程を学び、看護職に期待される政策立案能力を修得する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①保健医療領域における政策の背景と政策決定の過程について理解できる。</p> <p>②保健医療政策における看護行政の役割及び関連について理解できる。</p> <p>③看護実践で直面する課題と政策の関連を捉え、課題解決を遂行する能力を修得する。</p>		
	<p>1. ガイダンス/看護実践と政策の関連 [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>2. 保健医療福祉政策の変遷と課題 [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>3-4. 政策過程の理論(1)-(2) [講義・質疑応答] (河原)</p> <p>5-6. 看護政策の変遷と政策形成における看護職の役割 [講義・質疑応答] (河原)</p> <p>7-8. 政策過程の分析と評価(1)-(2) [講義・質疑応答] (河原)</p> <p>9-10. 政策過程の分析と評価(3)-(4) [講義・質疑応答] (河原)</p> <p>11-12. 保健医療福祉施策の実践と展望(1)-(2) [プレゼンテーション・質疑応答] (河原)</p> <p>13-14. 身近な看護課題における政策形成の計画と戦略(1)-(2) [講義・演習] (大木)</p> <p>15. 身近な看護課題における政策形成の計画と戦略(3) [プレゼンテーション・質疑応答] (大木)</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	(予習)		

	<p>1-15. 保健・医療・福祉に関する制度について、最新の状況、予算資料などを厚生労働省HPなどから事前に学習しておくこと。特に、医療保険制度、介護保険制度については、よく検討しておくこと。3~4回については、テキストの該当部分（主に第1章）を読み、疑問点を整理しておくこと。15回については、関心のある政策及び自らの体験した看護実践の課題をとり上げて、予め提示したワークシートを用いてレポートをまとめて臨むこと。</p> <p>（復習）</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション（60%）、レポート（40%）
備考	この科目は2単位です

科目名	フィジカルアセスメント	授業コード	23N10061
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	病態生理学	授業コード	23N10071
代表教員	岩楯 桜子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	臨床薬理学	授業コード	23N10081
代表教員	西村 伸大	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（共通科目）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

看護学専攻 博士前期課程

基礎看護科学分野

看護学専攻博士前期課程（令和 5年度学則） 【基礎看護科学分野】

(1) 高い倫理観と国際的視野

看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識

看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。

(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術

看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。

(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。

組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。

(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見

看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。

(6) 研究遂行能力

看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜							
				春	秋	夜間	土曜	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
基礎看護科学分野	健康支援看護学特論	金子 多喜子	2	○		○	×	★	★	★	★	★	
	遺伝看護学特論	鈴木 美和	2	○		○	○	★	★	★	★	★	
	生活機能看護学特論	荒添 美紀	2	○		○	×	★	★		★	★	
	特別講義	神宮寺 陽子	2	○		○	×						★
	特別講義	荒添 美紀	2	○		○	×	★	★		★	★	
	健康支援看護学演習	金子 多喜子	2		○	○	×	★	★		★	★	
	生活機能看護学演習	荒添 美紀	2		○	○	×	★	★		★	★	
	特別演習	佐野 恵美香	2		○	○	×	★	★				
	特別研究	荒添 美紀	4	○	○	—	—	★					★
	特別研究	金子 多喜子	4	○	○	—	—	★					★

【看護学専攻 基礎看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★基礎看護学に関心がある社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から5科目と特別研究を、専攻共通科目から6科目、研究科共通科目から2科目、計14科目30単位を履修する。

修了業要件 (30単位以上)							
科目と単位	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計		
主科目	専門分野科目	健康支援看護学特論 2	健康支援看護学演習 2			14	
		遺伝看護学特論 2					
	専攻共通科目	生活機能看護学特論 2		特別研究 (通年) 2	特別研究 (通年) 2	12	
小計		6	4	2	2		
研究科共通科目	専攻共通科目	看護教育学特論 2	看護政策学特論 2			4	
		看護管理学特論 2		フィジカルアセスメント 2			
	研究科共通科目	看護研究方法論 2			0		
小計		6	4	2	0		
主科目小計		16	8	4	2	30	
副科目	他専攻・他専門分野科目					0	
	副科目小計	0	0	0	0		
合計		16	8	4	2	30	

科目名	健康支援看護学特論	授業コード	23N20011
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	生活機能の柱である個々人における社会とのつながりについて考察し、看護師として働くことについて探求する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>学位授与の方針との関連</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>《一般目標 (GIO) 》 社会と看護、組織と個人のつながりを検討する。</p> <p>《個別目標 (SB0s) 》</p> <p>①社会の変化と看護行政を理解する。(知識)</p> <p>②看護とキャリア教育の課題を考察する。(知識)</p> <p>③看護師として働くことについて考察する。(知識)</p>		
授業計画	<p>1-2. 働くことと健康の関連 [講義・質疑応答] 組織心理学的視点から働くことを概観する。</p> <p>3-4. 社会の変化と看護行政 [プレゼンテーション・質疑応答] 社会の変化と看護行政の変遷について概観する。</p> <p>5-6. 看護の人材確保と育成の実際 [プレゼンテーション・質疑応答] 社会における看護ニーズから現状の看護における課題を検討する。</p> <p>7-8. キャリアの概念 [講義・質疑応答・演習] キャリア発達論を理解しキャリア教育の重要性について考察する。</p> <p>9-10. キャリアと自己理解 [講義・質疑応答・演習] キャリアを自らデザインすることの重要性について考察する。</p> <p>11-12. 個人と組織 [プレゼンテーション・質疑応答] 働く者の関係法規を紐解く。</p> <p>13-14. 看護の組織と個人 [プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>15. 看護師として働くこと [プレゼンテーション・質疑応答] (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		

	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献検討を行い、知見を整理して自己の考えをまとめておくこと。 プレゼンテーション実施において、前日までに資料を配布しておくこと。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション（30%）、口頭試問（30%）、レポート（40%）
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	遺伝看護学特論	授業コード	23N20021
代表教員	鈴木 美和	担当教員	
授業概要	<p>臨床遺伝学の基礎を学び、遺伝医療における看護の役割や倫理的・法的・社会的課題について理解する。</p> <p>事例を基に遺伝カウンセリングの内容についてディスカッションし、ロールプレイで実践力を養う。</p>		
学位授与の方針の関連 学習目標	<p>学位授与の方針との関連</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>到達目標 《一般目標（GIO）》 遺伝医療を求めるクライエントに最適な看護ケアを提供するために、臨床遺伝学の基礎を学び、遺伝医療における看護の役割や倫理的・法的・社会的課題について理解し、必要な知識・技術を修得する。</p> <p>《個別目標（SB0s）》 ①臨床遺伝学の基礎について説明できる。 ②遺伝医療における看護の役割を説明できる。 ③遺伝カウンセリングの目的・内容・進め方を説明できる。 ④家計図の聴取ができる。 ⑤遺伝医療における倫理的・法的・社会的課題について説明できる。</p>		

<p>授業計画</p>	<p>1-2. 臨床遺伝学と家系図 [講義・質疑応答] 臨床遺伝学の基礎と家系図の書き方を学ぶ。</p> <p>3. 遺伝看護学 [講義・質疑応答] 遺伝医療における看護の役割について学ぶ。</p> <p>4. 遺伝カウンセリング [講義・質疑応答] 遺伝カウンセリングの目的・内容・進め方などについて学ぶ。</p> <p>5. 事例検討①患者確定診断 (ハンチントン病) [講義・質疑応答・ディスカッション] 遺伝カウンセリングの内容・進め方、看護の役割、倫理的・法的・社会的課題について議論する。</p> <p>6. 事例検討②患者確定診断 (小児の筋ジストロフィー) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5回と同様だが、小児患者に対する確定診断について学びを深める。</p> <p>7. 事例検討③保因者診断 (遺伝性乳がん卵巣がん症候群) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-6回と同様だが、保因者診断による予防的治療や治療方針の変更について学びを深める。</p> <p>8. 事例検討④保因者診断 (習慣性流産) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-7回と同様だが、保因者診断について学びを深める。</p> <p>9. 事例検討⑤発症前診断 (脊髄小脳変性症) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-8回と同様だが、発症前診断について学びを深める。</p> <p>10. 事例検討⑥薬理遺伝学検査 [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-9回と同様だが、薬理遺伝学検査について学びを深める。</p> <p>11. 事例検討⑦出生前診断 (上肢型筋ジストロフィー) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-10回と同様だが、遺伝病を有する女性の出生前診断について学びを深める。</p> <p>12. 事例検討⑧出生前診断 (高齢妊娠) [講義・質疑応答・ディスカッション] 5-11回と同様だが、高齢妊娠の出生前診断について学びを深める。</p> <p>13-14. プレゼンテーション [プレゼンテーション・ディスカッション] 事例を基に看護の役割や課題についてプレゼンテーションし、ディスカッションする。</p> <p>15. カウンセリングの実際 [ロールプレイ] 遺伝カウンセリングのロールプレイを行う。</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
<p>準備学習</p>	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため、不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
<p>評価方法</p>	<p>レポート(80%)、プレゼンテーション(20%)</p>

備考

「臨床遺伝学総論」 臨床遺伝専門医制度委員会監修 ISBN:978-4787823670 診断と治療社、
「基礎から学ぶ 遺伝看護学」 中込さと子監修 ISBN:978-4758109734 羊土社
この科目は 2 単位です。

科目名	生活機能看護学特論	授業コード	23N20031
代表教員	荒添 美紀	担当教員	
授業概要	看護師の役割は、「人々が健康的な生活を営み、その人らしく生きることを支援する」ことである。そこで、心身機能・構造だけでなく、活動と参加を含む包括的な捉え方で、「生きていくまでの生活すべて」を含む生活機能モデルをもとに考察する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>人にとって、「生きてること」「健康」「生活」のそれぞれの意味について考察し、健康状態を加えた生活機能モデルから考察し、支援策を検討することができる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①「生きてること」「健康」「生活」について、説明することができる。(知識)</p> <p>②生活と健康をめぐる概念モデルについて説明することができる。(知識)</p> <p>③健康に関する状況、健康に影響する因子が述べられる。(知識)</p> <p>④国、専門分野、サービス分野、立場、時期などの違いを超えたデータの記録・共有・比較・評価などへの活用を考察できる。(知識)</p>		
授業計画	<p>1-2. ガイダンス、健康状態、生活機能とは [講義・質疑応答・ディスカッション] ガイダンス、「生きてること」「健康」「生活」とは何か、健康状況と健康関連状況、結果、決定因子の理解および ICF (生活機能分類) について概観する。</p> <p>3-4. 生活機能と障害：心身機能・身体構造 [講義・質疑応答・ディスカッション] 身体の構成要素である心身機能、身体構造と健康との関連を理解する。</p> <p>5-8. 生活機能と障害：活動・参加 [講義・質疑応答・ディスカッション] 個人的視点および社会的観点からみた生活機能のさまざまな側面から考察する。 活動と参加の関係を検討する。</p> <p>9-13. 背景因子：環境因子・個人因子 [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 環境因子（身近な環境から全般的な環境）が生活機能と障害の全ての構成要素に影響を及ぼすことや個人因子について考察する。また、「物的環境」や「人的環境」〔制度的</p>		

	<p>環境」についても検討し、特にコミュニケーションや医療安全についての理解も深める。</p> <p>14-15. 生活と健康をめぐる概念モデルの活用[プレゼンテーション・ディスカッション]</p> <p>国、専門分野、サービス分野、立場、時期などの違いを超えたデータの記録・共有・比較・評価 などへの活用を考察する。</p> <p>(フィードバック方法) 各回の授業初めに前回の授業に関して質疑応答し、不適切な理解を修正する。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討したうえで資料を作成し、前日までに資料を配布しておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、ディスカッション(30%)、レポート(40%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別講義	授業コード	23N20041
代表教員	神宮寺 陽子	担当教員	
授業概要	自らの経験を振り返り、これまでの知見と関連づけながら、対話を通じて問題の探索を行い、気づくことのできる省察能力について考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(5)課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』 看護職として学び続けるために省察することの意味を理解することができる。</p> <p>『個人目標 (SB0s) 』 ①省察とその方法について理解することができる。 ②看護職として省察することの意味を考察できる。 ③自らの実践や他者の実践を省察し、改善のための示唆を提示することができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 知識の獲得と利用[講義・質疑応答] 2. 省察の意味とその方法[講義・質疑応答] 3. 看護職として学び続ける意味[講義・質疑応答] 4. 省察的に語ること、書くこと[講義・質疑応答] <p>5-6. 自らの実践、他者の実践の省察①[プレゼンテーション・講義・討議]</p> <p>7-8. 自らの実践、他者の実践の省察②[インタビュー・プレゼンテーション・討議]</p> <p>9-10. 自らの実践、他者の実践の省察③[ロールプレイ・討議]</p> <p>11-12. 自己の経験とライフヒストリーの省察①[プレゼンテーション・討議]</p> <p>13-14. 自己の経験とライフヒストリーの省察②[プレゼンテーション・討議]</p> <p>15.まとめ (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し、自己の考えを整理してまとめておくこと。プレゼンテーションの実施において資料を作成し、配布すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点には資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習すること。</p>		
評価方法	プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)		
備考	この科目は2単位です。		

科目名	特別講義	授業コード	23N20051
代表教員	荒添 美紀	担当教員	
授業概要	看護学および看護理論の歴史的発展を踏まえ、看護学の重要な概念や看護の基礎となる看護理論の理解を深める。また諸理論の特徴を踏まえ、看護理論の実践、教育、研究への適応や応用について探求する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>看護の基礎となる看護理論の歴史的発展を踏まえ、主な看護理論の概念枠組み、理論枠組み、理論構築について理解する。また、主な看護理論の特徴や限界を踏まえ、看護の実践、教育、研究への適応や応用にむけて討議できる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①看護学および看護理論の歴史的発展を説明できる。(知識) ②主な看護理論の概要とその背景にある考え方について説明できる。(知識) ③主な看護理論の特徴とその限界について説明できる。(知識) ④看護理論の実践、教育、研究への活用方法について、討議できる。(技能・態度) ⑤看護理論の学習を通して、自らの実践を振り返ることができる。(技能・態度)</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス、看護理論とは [講義・質疑応答] 授業の目的、内容、スケジュールの確認、看護実践における理論的根拠、看護実践と看護理論、代表的な理論家の業績</p> <p>2. 看護理論の歴史的発展 [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 看護理論の発展してきた時代背景と業績</p> <p>3. 基本的看護の構成要素と実践への活用 [講義・質疑応答] 看護理論の構造、看護の主要概念（人間・環境・健康・看護）</p> <p>4. 看護理論の分類 [講義・質疑応答] テーマによる分類（ニード論、相互作用・人間関係、システム、ケアリング）、大きさによる分類（大理論、中範囲理論、小理論）</p> <p>5-6. 看護理論の概要及び評価 (1) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッ</p>		

	<p>ション】 ニード/問題をテーマとした理論家の看護理論の概要および限界 「バージニア・ヘンダーソン」「マイダ・ジーン・オーランド」「ドロセアE・オレム」</p> <p>7-8. 看護理論の概要及び評価 (2) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 相互作用・人間関係をテーマとした理論家の看護理論の概要および限界 「ヒルデガード・ペプロウ」「アーネスチン・ウィーデンバック」「ジョイス・トラベルビー」</p> <p>9. 看護理論の適用 (1) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 5-8回の看護理論を看護の実践、教育、研究へどのように適用するかをディスカッションする。</p> <p>10-11. 看護理論の概要及び評価 (3) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] システムをテーマとした理論家の看護理論の概要および限界 「マーサ・E・ロジャース」「アイジモン・キング」「シスター・カリスタ・ロイ」</p> <p>12-13. 看護理論の概要及び評価 (4) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] ケアリングをテーマとした理論家の看護理論の概要および限界 「マドレイン・レイニンガ?」「ジーン・ワトソン」「パトリシア・ベナー」</p> <p>14. 看護理論の適用 (2) [講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 10-13回の看護理論を看護の実践、教育、研究へどのように適用するかをディスカッションする。</p> <p>15. まとめ [講義・質疑応答] 今までの講義のまとめを行う。 (フィードバック方法) レポート、プレゼンテーションに対して、全体および個別に講評を返却する。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回ともそれぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は、60時間以上必要であるため、不足分は休暇などを利して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(50%)、口頭試問(30%)、レポート(20%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	健康支援看護学演習	授業コード	23N20062
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	社会の構造と健康について概観し、既存の概念枠組みから生活機能を多面的にとらえる視点を考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>学位授与の方針との関連</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>《一般目標 (GIO)》 社会と看護、組織と個人のつながりを検討する。</p> <p>《個別目標 (SB0s)》</p> <p>①社会の変化と看護行政を理解する。(知識)</p> <p>②看護とキャリア教育の課題を考察する。(知識)</p> <p>③看護師として働くことについて考察する。(知識)</p>		
授業計画	<p>1-2. プレゼンテーションと論理的思考 [講義・質疑応答] 本科目における思考を整理する視点について理解する。</p> <p>3-4. 健康格差の現状と背景 [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 健康格差の現状と背景を先行研究から読み解く。</p> <p>5-6. 健康の公平性と社会 [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 健康の公平性を担保する社会的しくみについて検討する。</p> <p>7-8. 看護研究の実際① [講義・質疑応答]</p> <p>9-10. 看護研究の実際② [講義・質疑応答]</p> <p>11-12. 多様性の理解① [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 求められる健康の多様化と社会的マイノリティについて検討する。</p> <p>13-14. 多様性の理解② [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 求められる健康の多様化と格差について検討する。</p> <p>15. 看護の多様性と教育 [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 求められる健康の多様化と高度な看護ニーズについて検討する。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		

	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する文献検討を行い、知見を整理して自己の考えをまとめておくこと。 プレゼンテーション実施において、前日までに資料を配布しておくこと。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション（30%）、口頭試問（30%）、レポート（40%）
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	生活機能看護学演習	授業コード	23N20072
代表教員	荒添 美紀	担当教員	
授業概要	生活機能を多面的に捉える視点を様々な看護研究や既存の概念モデルをふまえ考察する。また対象者を理解したうえで、看護師として生活機能を向上させるための支援策を探求する。また多職種連携についても検討する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>生活機能について人にとっての「生活」の意味について考察し、生活機能を向上させるための支援策を検討する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①生活と健康をめぐる概念モデルをもとに、対象を多面的に理解できる。(知識)</p> <p>②生活機能を向上させるための支援策を検討することができる。(知識)</p> <p>③生活機能の評価方法について説明できる。(知識)</p>		
授業計画	<p>1-2. ガイダンス、生活機能看護の概要[講義・質疑応答・ディスカッション] ガイダンス、生活機能モデルから対象の理解、生活機能看護学の概要を説明する。</p> <p>3-4. 文献クリティック・文献検討[講義・質疑応答・プレゼンテーション・ディスカッション] 文献クリティック・文献検討について説明をしたうえで、文献のクリティックをする。</p> <p>5-6. 対象の理解：健康状態・背景因子[プレゼンテーション・ディスカッション] 対象を理解するために、健康のとらえ方、環境因子、個人因子との関係について検討する。</p> <p>7-8. 対象の理解：生活機能と障害[プレゼンテーション・ディスカッション] 対象を理解するために、心身機能・身体構造、活動、参加との関係について検討する。</p> <p>9-14. 生活機能を向上するための支援[プレゼンテーション・ディスカッション] 身体可動性、食生活、睡眠と休息、排泄などの視点から生活機能を向上するための支援策を検討する。</p> <p>15. 多職種連携に関する教育カリキュラムの概観[プレゼンテーション・ディスカッショ</p>		

	<p>ヨン]</p> <p>多職種連携に関わる職種の教育カリキュラムの特徴や多職種連携の認識について概観する。</p> <p>(フィードバック方法) 各回の授業初めに前回の授業に関して質疑応答し、不適切な理解を修正する。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成し、前日までに資料を配布しておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、ディスカッション(30%)、レポート(40%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別演習	授業コード	21N20112
代表教員	佐野 恵美香	担当教員	
授業概要	呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援について国内外の動向と具体的な方法を理解し、質を向上させるための実践を考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』</p> <p>呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援を理解する。</p> <p>『個人目標 (SB0s) 』</p> <p>①呼吸器疾患患者の状況について説明する。(知識)</p> <p>②セルフマネジメント支援を説明する。(知識)</p> <p>③セルフマネジメント支援の国内外の動向を学ぶ。(知識)</p> <p>④呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援の方法を学ぶ。(知識・技術)</p>		
授業計画	<p>1-3. 呼吸器疾患患者について[講義・質疑応答] 呼吸器疾患患者の理解と現況について学ぶ。</p> <p>4-10. セルフマネジメント支援の考え方と実践について[プレゼンテーション・討議] 呼吸器疾患患者のセルフマネジメントのための学習内容項目をまとめ理解を深める。</p> <p>11-14. 呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援の動向[プレゼンテーション・討議] 呼吸器疾患患者のセルフマネジメント支援の国内外の動向を文献検討と討議により学ぶ。</p> <p>15. まとめ (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマについてのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p>		
評価方法	プレゼンテーション(60%)、レポート(40%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N2T1A1 / 23N2T1A2
代表教員	荒添 美紀	担当教員	
授業概要	関心のあるテーマから研究課題を設定し、研究テーマに沿った研究計画を作成したうえで、調査・実験などによりデータを収集・分析を行い論文としてまとめる。論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>自らの研究活動を通して看護研究に必要な考え方や手法を学び、研究者としての基礎的能力を修得する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①関心のある研究疑問から研究テーマへと発展させることができる。(知識) ②研究テーマを明確化し、研究計画の立案、研究実施の過程を遂行できる。(技能) ③倫理的に適切な研究方法を選択できる。(知識) ④結果を分析・考察し論文を論理的にまとめることができる。(技能)</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習] 6-10. 研究計画書の作成 [演習] 11-15. データ収集 [演習] 16-20. データ分析 [演習] 21-25. 結果、考察の検討 [演習] 26-30. 論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は、120 時間以上必要であるため、不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文 (90%)、口頭試問 (10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N2T1C1 / 23N2T1C2
代表教員	金子 多喜子	担当教員	
授業概要	文献検討により明らかになった研究目的に沿って研究方法を選択し、収集したデータの分析を行い論文としてまとめる。一連の論文作成過程を通して、研究するための基礎的能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①研究疑問から文献検索を行い、研究目的を明確にできる。</p> <p>②研究計画に基づき自ら研究を遂行できる。</p> <p>③研究結果の実践への応用について説明できる。</p> <p>④科学的かつ論理的に論文をまとめることができる。</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題の焦点化と研究課題の抽出 [演習]</p> <p>6-10. 研究計画書作成 [演習]</p> <p>11-15. データ収集 [演習]</p> <p>16-20. データ分析 [演習]</p> <p>21-25. 結果、考察の検討 [演習]</p> <p>26-30. 論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は4単位です。		

看護学専攻 博士前期課程
実践看護科学分野

看護学専攻博士前期課程（令和5年度学則）

【実践看護科学分野】

(1) 高い倫理観と国際的視野

看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識

看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。

(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術

看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。

(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。

組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。

(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見

看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。

(6) 研究遂行能力

看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜		★	★	★	★	★	★
				○	○	○	○		●	●	●	●	●	●
実践看護科学分野	精神看護学特論 I	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学特論 II	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学特論 III	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学特論 IV	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学特論 V	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学演習 I	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学演習 II	佐藤 美保	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学実習 I	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学実習 II	浅沼 奈美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	精神看護学実習 III	浅沼 奈美	6	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
看護科学分野	がん看護学特論 I	量 倫子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学特論 II	橋爪 可織	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学特論 III	中島 恵美子	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学特論 IV	量 倫子	4		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学演習 I	中島 恵美子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学演習 II	橋爪 可織	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学実習 I	中島 恵美子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学実習 II	中島 恵美子	4	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	がん看護学実習 III	中島 恵美子	4	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学特論 I	加賀谷 聰子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
分野	クリティカルケア看護学特論 II	伊藤 有美	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学特論 III	加賀谷 聰子	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	病態治療論	酒井 透江	2	○		—	—	※	★		★		★	
	クリティカルケア看護学演習 I	伊藤 有美	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学演習 II	伊藤 有美	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学演習 III	加賀谷 聰子	2		○	—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学実習 I	加賀谷 聰子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学実習 II	伊藤 有美	3	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学実習 III	伊藤 有美	3	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
	クリティカルケア看護学実習 IV	加賀谷 聰子	2	○		—	—	※	★	★	★	★	★	★
高齢者看護学分野	高齢者看護学特論 I	岩崎 孝子	2	○		○	×		★		★			
	高齢者看護学特論 II	岩崎 孝子	2	○		○	×		★			★		
	高齢者看護学演習 I	岩崎 孝子	2		○	○	×		★		★			
	高齢者看護学演習 II	岩崎 孝子	2		○	○	×					★		★

看護学専攻博士前期課程（令和 5 年度学則） 【実践看護科学分野】

(1) 高い倫理観と国際的視野

看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。

(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識

看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。

(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術

看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。

(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力

看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバとしての役割を果たすことができる。

組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。

(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見

看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。

(6) 研究遂行能力

看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。

専門分野	授業科目	単位認定者 (R 7)	単位数	開講時期		社会人特別選抜		備考	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
				春	秋	夜間	土曜		★	★	★	★	★	★
実践看護	ワイメンズヘルス看護学特論 I	勝又 里織	2	○		○	×		★	★	★	★	★	★
	ワイメンズヘルス看護学特論 II	佐々木 裕子	2		○	○	×		★	★	★	★	★	
	ワイメンズヘルス看護学演習 I	勝又 里織	2		○	○	×		★	★	★	★	★	★
	ワイメンズヘルス看護学演習 II	佐々木 裕子	2	○		○	×		★	★	★	★	★	★
	助産学特論	田中 利枝	2	○		○	×		★					
	助産学演習	田中 利枝	2	○		○	×			★				
	小児看護学特論 I	米山 雅子	2	○		○	○		★	★		★	★	
	小児看護学特論 II	藤田 千春	2		○	○	○		★	★				
	小児看護学演習 I	米山 雅子	2		○	○	○		★	★		★	★	
	小児看護学演習 II	藤田 千春	2	○		○	○		★	★				
看護科学分野	地域看護学特論 I	大木 幸子	2	○		×	○		★	★	★	★	★	★
	地域看護学特論 II	大木 幸子	2	○		×	○		★	★				★
	地域看護学演習 I	大木 幸子	2		○	×	○		★	★	★	★	★	★
	地域看護学演習 II	大木 幸子	2		○	×	○		★	★	★	★	★	★
	在宅看護学特論	柴崎 美紀	2		○	○	×		★					
	在宅看護学演習	柴崎 美紀	2		○	○	×		★					
	家族看護学特論	佐藤 ユキ子	2		○	○	×					★		
	特別講義	大木 幸子	2	○		×	○		★	★	★	★	★	★
	特別講義	佐藤 ユキ子	2		○	○	×					★		
	特別演習（がん看護）	中島 恵美子	2		○	○	○		★					★
学外研究	特別演習（クリティカルケア看護）	加賀谷 聰子	2		○	○	○		★					★
	特別演習（精神看護）	浅沼 奈美	2		○	○	×		★					★
	特別研究	浅沼 奈美	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	岩崎 孝子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	大木 幸子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	加賀谷 聰子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	勝又 里織	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	中島 恵美子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	柴崎 美紀	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	佐々木 裕子	4	○	○	—	—		★					★
野分野	特別研究	佐藤 ユキ子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	田原 美香	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	藤田 千春	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究	米山 雅子	4	○	○	—	—		★					★
	特別研究													

※専門看護師教育課程科目の選択必修科目となる。

また、専門看護師教育課程を希望していない学生も履修可能である。

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★がん看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位、専攻共通科目から7科目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。
加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)							
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計	
主科目	専門分野科目	がん看護学特論 I がん看護学特論 II がん看護学演習 I	2 2 2	がん看護学特論 III がん看護学特論 IV がん看護学演習 II	2 4 2	特別演習 2	26
			がん看護学実習			10	
	小計	6		8	0	12	
	専攻共通科目	看護教育学特論 看護管理学特論 看護研究方法論 フィジカルアセスメント 病態生理学 臨床薬理学	2 2 2 2 2 2	コンサルテーション論	2		14
	小計	12		2	0	0	
	研究科共通科目	研究倫理	2				2
小計		2		0	0	0	
主科目小計		20		10	0	12	
副科目	他専攻・他専門分野科目						0
	副科目小計	0		0	0	0	
	合計	20		10	0	12	42

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★精神看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位と専攻共通科目から7科目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。
- ・加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)						
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計
専門分野科目	精神看護学特論Ⅰ 精神看護学特論Ⅱ 精神看護学特論Ⅲ	2 2 2	精神看護学特論Ⅳ 精神看護学特論Ⅴ 精神看護学演習Ⅰ 精神看護学演習Ⅱ	2 2 2 2	特別演習 2	26
			精神看護学実習 10			
小計		6	8	0	12	
主科目	看護教育学特論 看護管理学特論 看護研究方法論 フィジカルアセスメント 病態生理学 臨床薬理学	2 2 2 2 2 2	コンサルテーション論 2		14	
小計		12	2	0	0	
研究科共通科目	研究倫理	2			2	
小計		2	0	0	0	
主科目小計		20	10	0	0	
副科目	他専攻・他専門分野科目				0	
副科目小計		0	0	0	0	
42		20	10	0	12	42

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★クリティカルケア看護の専門看護師を目指す社会人大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から実習を含めて8科目24単位と専攻共通科目から7目14単位、研究科共通科目から1科目2単位の計40単位を履修する。
加えて、特定の課題に関する研究報告書を作成するにあたり、特別演習2単位を履修する。
- ・上記履修科目は、専門看護師教育課程に則った履修科目となっている。

修了要件 (30単位以上)					
科目と単位	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計
専門分野科目	クリティカルケア看護学特論 I クリティカルケア看護学特論 II クリティカルケア看護学演習 I 病態治療論	2 2 2 2	クリティカルケア看護学特論 III クリティカルケア看護学演習 II クリティカルケア看護学演習 III	2 2 2	特別演習 2
			クリティカルケア看護学実習		
小計	8	6	0	12	
主科目	看護教育学特論 看護管理学特論 看護研究方法論 フィジカルアセスメント 病態生理学 臨床薬理学	2 2 2 2 2 2	コンサルテーション論	2	
					14
小計	12	2	0	0	
研究科共通科目	研究倫理	2			
					2
小計	2	0	0	0	
主科目小計	22	8	0	12	42
副科目	他専攻・他専門分野科目				0
副科目小計	0	0	0	0	
合計	22	8	0	12	42

【看護学専攻 実践看護科学分野 博士前期課程 履修モデル】

★実践看護科学分野において学位論文を作成し、修士の学位取得を目指す一般及び社会人
大学院生の履修例

- ・主科目として、専門分野科目から5科目と特別研究を、専攻共通科目から6科目、研究科共通科目から1科目、計14科目30単位を履修する。

※履修にあたっては、Ⅱ教務事項 3)授業科目および取得すべき単位の(1)(2)を参照すること。

修了業要件 (30単位以上)						
科目と単位		1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	計
主 科 目	専 門 分 野 科 目	地域看護学特論 I 2 地域看護学特論 II 2 特別講義 2	地域看護学演習 I 2 地域看護学演習 II 2			14
				特別研究(通年) 2	特別研究(通年) 2	
	小計	6	4	2	2	
	専攻 共通 科 目	看護教育学特論 2 看護管理学特論 2 看護研究方法論 2 病態生理学 2 臨床薬理学 2	看護政策学特論 2	フィジカルアセスメント 2		14
	小計	10	2	2	0	
研究 科 共 通 科 目	研究倫理 2					2
	小計	2	0	0	0	
	主科目小計	18	6	4	2	30
副 科 目	他 専 攻 ・ 他 専 門 分 野 科 目					0
	副科目小計	0	0	0	0	
合計		18	6	4	2	30

科目名	精神看護学特論Ⅰ	授業コード	23N30011
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30021
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学特論III	授業コード	23N30031
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学特論IV	授業コード	23N30042
代表教員	佐藤 美保	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学特論V	授業コード	23N30052
代表教員	佐藤 美保	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学演習Ⅰ	授業コード	23N30062
代表教員	佐藤 美保	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30072
代表教員	佐藤 美保	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学実習 I	授業コード	23N30081A / 23N30082A
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は 2 単位です</p>		

科目名	精神看護学実習Ⅱ	授業コード	23N30081A / 23N30082A
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	精神看護学実習Ⅲ	授業コード	23N30081A / 23N30082A
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（精神看護）参照</p> <p>この科目は 6 単位です</p>		

科目名	がん看護学特論Ⅰ	授業コード	23N30091
代表教員	量 倫子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30101
代表教員	橋爪 可織	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学特論III	授業コード	23N30112
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学特論IV	授業コード	23N30122
代表教員	量 倫子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は4単位です</p>		

科目名	がん看護学演習Ⅰ	授業コード	23N30131
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30142
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学実習 I	授業コード	23N30151A / 23N30152A
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	がん看護学実習Ⅱ	授業コード	23N30151A / 23N30152A
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は4単位です</p>		

科目名	がん看護学実習Ⅲ	授業コード	23N30151A / 23N30152A
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（がん看護）参照</p> <p>この科目は4単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学特論 I	授業コード	23N30161
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30171
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学特論Ⅲ	授業コード	23N30182
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学演習 I	授業コード	23N30192
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30202
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学演習Ⅲ	授業コード	23N30212
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学実習 I	授業コード	23N30221A / 23N30222A
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学実習Ⅱ	授業コード	23N30221A / 23N30222A
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は3単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学実習Ⅲ	授業コード	23N30221A / 23N30222A
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は3単位です</p>		

科目名	クリティカルケア看護学実習IV	授業コード	23N30221A / 23N30222A
代表教員	伊藤 有美	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	病態治療論	授業コード	23N30441
代表教員	酒井 透江	担当教員	
授業概要	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p>		
授業計画	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
準備学習	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
評価方法	専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照		
備考	<p>専門看護師教育課程講義概要（クリティカル看護）参照</p> <p>この科目は2単位です</p>		

科目名	高齢者看護学特論Ⅰ	授業コード	23N30231
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	<p>高齢者看護で用いる理論、概念について学び、高齢者とその家族を対象にした看護を実践するための理論的基盤を養う。生涯発達の視点からライフステージとしての高齢期を考え、高齢者とその家族の生活に基づいたヘルスアセスメント方法、高齢者をとりまく様々な諸制度や介護サービス、サポートシステム、多職種との連携、高齢者をとりまく社会政策、国際レベルでの政策や高齢者ケアの動向について理解を深め、高齢者ケアの専門性についてディスカッションをもとに修得していく。</p>		
学位授与方針の関連学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(2)看護・保健領域の高度専門職業人としての知識</p> <p>看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4)看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力</p> <p>看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>《一般目標(GI0)》</p> <p>高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。</p> <p>《個別目標(SB0s)》</p> <p>①高齢者看護学で用いる理論や概念について述べることができる。</p> <p>②ライフステージにある高齢期とはどのような段階を示すのか説明することができる。</p> <p>③我が国の人口動態と疾病構造を踏まえ、高齢者とその家族が抱える健康や生活問題について述べることができる。</p> <p>④我が国の介護の現場及び介護保険制度、介護の国際動向などを踏まえて、高齢者介護をめぐる諸問題について説明することができる。</p> <p>⑤高齢者とその家族への具体的支援について例をあげて説明することができる。</p>		
授業計画	<p>1. 高齢者看護学特論ガイド [講義・質疑応答]</p> <p>高齢者看護学特論で扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画を立てる。</p> <p>2-3. 高齢者看護で用いる理論と概念 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>高齢者看護学で用いられている看護理論について、その有効性と範囲、理論枠組みなどを、文献検討を行いディスカッションする。</p> <p>4-5. ライフステージとしての高齢期 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>高齢者の発達課題、エンパワーメント、ストレングスモデルなどについて文献を読み討論する。</p> <p>6-7. 高齢者の健康生活評価 [講義・質疑応答]</p> <p>高齢者の総合的機能評価(CGA)、QOLと評価、国際生活機能分類(ICF)の考え方について学ぶ。</p>		

	<p>8-9. 家族看護とアセスメント [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 家族に関連する諸理論を踏まえ、家族が問題対処能力を高めながら、問題解決できるように援助するためのアセスメント方法を学ぶ。</p> <p>10-11. 老年保健医療福祉政策 [講義・質疑応答] 老人福祉法・老人保健法・介護保険などを含む老年保健医療福祉政策を理解し、その特徴を明確にする。</p> <p>12-13. 地域共生社会におけるケアマネジメント [講義・プレゼンテーション・質疑応答] ケアマネジメントの理論と方法を理解し、地域包括ケアの視点を踏まえた高齢者ケアについてディスカッションする。</p> <p>14-15. 多様な場における高齢者とその家族へのサポートシステム [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 在宅・施設・病院と様々な療養の場におけるケアの継続性について文献検討より理解を深め、暮らしを支えるサポートシステム構築に向けた方策をディスカッションする。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。 各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。</p> <p>(復習) 1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	高齢者看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30241
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	高齢者看護実践における倫理的諸問題に対応するための倫理、エンドオブライフケアなど高齢者看護実践の展開に必要な専門知識およびその看護実践の活用について学び、高齢者をとりまく社会政策、国際レベルでの政策や高齢者ケアの動向から老年看護学分野における実践的な研究課題について探究できる力を身につける。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①高齢者の価値観や信念を尊重した看護を実現するために必要な倫理的看護判断について説明できる。</p> <p>②複雑な健康問題を抱える高齢者の価値観・信念に基づいた意思決定について説明できる。</p> <p>③エンドオブライフケアの臨床的課題に対する方法論的アプローチについて学び、アセスメントと介入、評価について説明できる。</p> <p>④高齢者の治療、療養に関わる支援システムとその構築、活用の実際について説明できる。</p> <p>⑤高齢者看護分野における看護政策や国際的動向について説明することができる。</p>		
授業計画	<p>1. 高齢者看護学特論Ⅱガイダンス [講義・質疑応答] 高齢者看護学特論で扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画を立てる。</p> <p>2-3. 高齢者ケアにおける倫理 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 看護現場における倫理の基盤となる考え方や概念を理解し、多様な倫理的問題と関係者が抱く葛藤の特徴を理解するためのアプローチを学修する。</p> <p>4-5. 看護実践における倫理的問題 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 高齢者を取り巻く様々な倫理的課題について事例を用いてディスカッションし、倫理的調整に向けた対応を検討する。</p> <p>6-7. 高齢者の意思決定プロセスとアドバンス・ケア・プランニング [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 多様な療養の場における意思決定プロセスについて、本人を中心としたかかわる人々によるチームアプローチの方策を学修する。</p> <p>8-9. 高齢者のエンドオブライフケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] エンドオブライフケアにおけるグリーフケア、スピリチュアルケア、倫理的課題につ</p>		

	<p>いて検討し、アセスメント、実践、評価のアプローチ方法を学修する。</p> <p>10-11. 諸外国における高齢者の健康生活に関する制度と課題（認知症ケア）【講義・プレゼンテーション・質疑応答】</p> <p>認知症ケアにかかる諸外国の制度やシステムについて文献検討を行い、認知症者の生活や活動の在り方および療養環境の整備などから生活の質の向上を目指した看護システムについてディスカッションする。</p> <p>12-13. 諸外国における高齢者の健康生活に関する制度と課題（急性期ケア）【講義・プレゼンテーション・質疑応答】</p> <p>急性期医療にかかる諸外国の制度やシステムについて文献検討を行い、高齢者の治療、療養に関する支援システムについてディスカッションする。</p> <p>14-15. 世界の保健医療福祉政策 【講義・プレゼンテーション・質疑応答】</p> <p>世界の保健医療福祉政策と制度・ケアシステムについて理解し、日本における政策やケアシステムの今後について探求する。</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。</p> <p>各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。</p> <p>メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	高齢者看護学演習Ⅰ	授業コード	23N30252
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	<p>生涯発達の視点からライフステージとしての高齢期を考え、高齢者ケアの専門性について検討する。高齢者に関わる看護理論を踏まえて、生活援助視点に基づいたヘルスアセスメント方法、高齢者と介護保険制度や介護サービス、高齢者をめぐる様々な倫理的問題について理解を深め、問題提起とディスカッションにより高齢者ケアのあり方について修得する。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①認知症高齢者と家族のアセスメント方法、学際的チームアプローチを含む看護ケアのエビデンスについて理解する。</p> <p>②高齢者の摂食・嚥下機能および栄養状態の評価と看護ケアについて説明できる。</p> <p>③高齢者に特徴的な看護ニーズ（フレイル、転倒、尿失禁）について最近の研究や実践動向を踏まえて説明できる。</p> <p>④高齢者における薬物動態と薬物相互作用について説明できる。</p> <p>⑤高齢者をめぐる様々な倫理的問題について説明でき、問題解決に向けて具体的な検討を行うことができる。</p> <p>⑥高齢者への切れ目のない支援を行うための方策やシステムについて述べることができる。</p> <p>⑦加齢に伴う疾患や障害を抱えた高齢者とその家族について、ヘルスアセスメントを含んだ生活援助視点での具体的な看護ケアについて述べることができる。</p> <p>⑧高齢者ケアシステムの構築や改善を推進する施策について具体的に述べることができる。</p>		

<p>授業計画</p>	<p>1. 高齢者看護学演習Ⅰ ガイダンス [講義・質疑応答] 高齢者看護学演習で扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画を立てる。</p> <p>2-3. 高齢者の精神・認知機能評価 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 高齢者の精神・認知機能（認知症、せん妄、抑うつ）のアセスメント技法を修得し、高齢者とその家族への学際的チームアプローチ、看護援助方法についてディスカッションする。</p> <p>4-5. 高齢者の栄養評価 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 高齢者の摂食・嚥下機能のアセスメント方法と栄養評価の実際について学修し、学際的チームアプローチ、看護援助方法についてディスカッションする。</p> <p>6-7. 高齢者に特徴的な看護ニーズ（フレイル、転倒、尿失禁） [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 高齢者とその家族に特徴的にみられる看護ニーズ（フレイル、転倒、尿失禁）について、理論、介入、評価方法などを最近の研究から理解する。</p> <p>8-9. 高齢者の薬物動態テーマ [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 高齢者における薬物動態と薬物相互作用、薬物療法の実際について理解し、臨床現場で医薬品使用時に配慮する視点についてディスカッションする。</p> <p>10-11. 入退院支援と在宅療養移行支援 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 地域包括ケアシステムにおける入退院支援や在宅療養移行支援で求められる高齢者ケアについて、事例や文献検討を通して探求する。</p> <p>12-13. 高齢者と家族の看護 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 事例検討により、高齢者とその家族に関する理論・看護・評価について探求する。</p> <p>14-15. 高齢者ケア改善に向けた提言テーマ [講義・プレゼンテーション・質疑応答] ケアシステムの構築や改善を推進するプロセスを学び、ケア改善への提案を実際に行う。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
<p>準備学習</p>	<p>(予習) 1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。 各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンテーションできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。 メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。</p> <p>(復習) 1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
<p>評価方法</p>	<p>レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)</p>
<p>備考</p>	<p>この科目は2単位です。</p>

科目名	高齢者看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30262
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	<p>個々の関心ある研究テーマに関する課題と国際的な動向を知るとともに、研究計画の作成・研究実施・公表に向けて必要な概念・知識・方法を学び、効果的な実践や新たなケアシステム開発等に資する質の高い研究を遂行していく能力を養成する。複雑な課題を抱える高齢者とその家族の事例検討や老年看護に関する研究の現状分析を行い、質の高い看護を提供するための能力と老年看護学分野における実践的な研究課題について探究できる力を身につける。</p>		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(5)課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6)研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>高齢者看護学領域の中で学問的関心のあるテーマを設定でき、それに伴う問題の背景や現状と具体的な看護援助、研究方法について理解し、研究的問いを立てることができる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>学習内容について、国内外の教育・実践・研究およびその動向、医療や看護を取り巻く環境や状況の変化に関連させながら議論することができる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老年看護領域におけるベストプラクティス ・安寧を損なう状況に対する予測的・予防的援助 ・治療の継続を可能にするアプローチ ・多職種連携による高齢者とその家族へのアプローチ ・高齢者の権利擁護と看護師による倫理的対応 		
授業計画	<p>1. 高齢者看護学演習Ⅱガイダンス [講義・質疑応答] 高齢者看護学演習Ⅱで扱うテーマや内容についてオリエンテーションを行い、今後の計画を立てる。</p> <p>2-5. 各自のテーマに基づいて文献調査を行う。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>6-7. 各自のテーマにおける論点、問題点について発表する。(中間発表) [講義・演習・質疑応答]</p> <p>8-11. 中間発表時の討論を踏まえて、解決のための専門的援助のありかたについてさらに文献調査、検討を行う。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>12-13. 各自のテーマに関する専門的援助のあり方について発表する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>14-15. 各自のテーマに関するレポートを作成する。[講義・演習・質疑応答] (フィードバック方法) 課題は個別に面接し、フィードバックを行う。</p>		

準備学習	<p>(予習) 1-15. 各自授業テーマについての文献収集と文献検討を行う。 各自授業テーマについて得られた知見を整理し、自己の考えについてプレゼンできるように準備する。各自授業テーマにそってプレゼンテーションを準備する。 メンバーがあげたテーマについて文献を読み、ディスカッションできるように準備する。 (復習) 1-15. 各回の授業内容を各自適した方法でまとめておく。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学特論 I	授業コード	23N30271
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	女性の性と生殖に関する健康課題をライフステージおよび国や地域による特徴、それに対する健康教育、健康施策の現状と今後の方向性を、関連文献、書籍、国際機関、職能団体、学会などの資料を収集・分析し、討論を通じて論点を明らかにする。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>女性の性と生殖に関する健康課題、特に出産／子育てに関する国内外の現状と今後の課題、保健医療の施策について理解する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①日本におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。</p> <p>②途上国におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。</p> <p>③先進諸国におけるリプロダクティブヘルス/ライツの課題と保健医療施策の変遷、今後の課題について説明できる。</p> <p>④親になる過程とその病理に関する現状と課題について説明できる。</p>		

授業計画	<p>1-2. リプロダクティブヘルス／ライツの概念と歴史的変遷 [講義・質疑応答] リプロダクティブヘルス／ライツの概念の歴史的な背景、日本における避妊および人工妊娠中絶をめぐる変遷を通して理解する。</p> <p>3-4. リプロダクティブヘルス／ライツに対する世界保健機関(WHO)の活動 [講義・質疑応答] リプロダクティブヘルス／ライツの中で特に分娩に関わる医療者および医療介入の課題に関する世界保健期間の活動を理解する。</p> <p>5-6. 途上国におけるリプロダクティブヘルスの課題 [講義・質疑応答] 途上国のリプロダクティブヘルス／ライツの課題 (女性性器切除、家族計画、HIVなど) について理解する。</p> <p>7-8. 母親をめぐる諸問題 [講義・質疑応答] 母親らしさの社会通念、女性の母親への適応過程における課題について理解する。</p> <p>9-10. 親役割適応課程とその病理 [講義・質疑応答] ボンディング障害、虐待、産後うつなど、親になる過程で生じる種々の課題について理解する。</p> <p>11-12. リプロダクティブヘルス/ライツの課題 [グループワーク] リプロダクティブヘルス／ライツの重要課題を各自が選び、現状分析と今後の課題、看護介入の方向性について理解する。</p> <p>13-15. リプロダクティブヘルス/ライツの課題 [ゼミ・討論] 11-12回でグループで取り組んだリプロダクティブヘルス／ライツの重要課題について発表し、今後の課題、看護介入の方向性について意見交換を行う。 (フィードバック方法)ゼミでの発表は毎回授業時間内で講評する。</p>
	<p>(予習)</p> <p>1-15. 講義では各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。ゼミでは発表者は、毎回のテーマに即した発表について、授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料及び文献を熟読して出席する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義後は、講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき細く学習を行う。ゼミ後は発表者はコメントに基づき不足していく点を補足し、追加資料を作成する。参加者は授業内容と補足資料に基づき、内容をまとめる。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(75%)、プレゼンテーション(25%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30282
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	ウィメンズヘルス領域で用いられる理論や概念を理解し、ライフステージから見た女性の健康問題に応じた看護援助および施策の現状と課題について関連文献を収集、分析し、討議を通じて探求する。		
学位授与の方針との関連 学習目標	<p>『学位授与の方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>女性の生涯にわたる健康に関連した諸理論や概念を理解し、女性を取り巻く今日的課題と看護援助の方法を探求できる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①諸理論を活用した女性の健康問題の捉え方が理解できる。</p> <p>②女性のライフサイクル各期における健康問題に関する最新の知見ならびにガイドラインに基づくケアが理解でき、生涯にわたる女性の健康支援の視点から今後の課題を考察できる。</p> <p>③わが国における女性の健康に関する保健医療施策の課題について考察できる。</p> <p>④親になる過程で生じる女性と家族の健康問題について説明できる。</p>		
授業計画	<p>1-2. ウィメンズヘルスケアと基礎理論 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] セクシュアル・リプロダクティブヘルス/ライツ、ジェンダー、フェミニズム、ヘルスプロモーションとエンパワーメントについて理解する。</p> <p>3-4. プレコンセプションケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] プレコンセプションケアの必要性と保健医療施策の課題について理解する。</p> <p>5-6. 思春期女性の健康問題とヘルスケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] やせ、月経障害等が及ぼす健康影響について理解する。</p> <p>7-8. 成熟期女性の健康問題とヘルスケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 不妊症、人工妊娠中絶、性感染症等が及ぼす健康影響について理解する。</p>		

	<p>9-10. 更年期・老年期女性のヘルスケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 更年期障害、がん等が及ぼす健康影響とウィルエイジングについて理解する。</p> <p>11. 女性へのバイオレンスと医療ケア [講義・プレゼンテーション・質疑応答] デート DV、IPV が及ぼす健康影響について理解する。</p> <p>12-13. マタニティサイクルにおける親役割獲得と家族の発達 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 周産期の代表的な理論、愛着、母子関係、危機理論、移行理論について理解する。</p> <p>14-15. 親になる過程で生じる女性と家族の健康問題 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 親になる過程で生じるメンタルヘルスの不調、ボンディング障害、虐待について理解する。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 講義では各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習しなおしておく。ゼミでは発表者は、毎回のテーマに即した発表について、授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料及び 文献を熟読して出席する。</p> <p>(復習) 1-15. 講義後は、講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を行う。ゼミ後は発表者はコメントに基づき不足している点を補足し、追加資料を作成する。参加者は授業内容と補足資料に基づき、内容をまとめる。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(50%)、プレゼンテーション(50%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学演習I	授業コード	23N30292
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	女性の各ライフステージに関わる健康課題を持つ個人や集団、看護介入技法などを理解し、専門的ケアの提供およびケア開発に関わる能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 女性およびその家族の健康について関心のある特定のテーマに関する問題を分析し解決策について専門的に学ぶ。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①国内外のウィメンズヘルスの課題の中から重要な緊急課題を選択することができる。</p> <p>②選択した課題の背景要因、現状分析を行うことができる。</p> <p>③問題状況の分析を踏まえた予防策、改善策、将来予測を考える方法を理解することができる。</p>		

授業計画	<p>すべてゼミ形式で行う。</p> <p>1. ウィメンズヘルス看護学特論で学習した課題の中から、各自の関心あるテーマを選定する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>2-5. 各自のテーマに基づいて文献調査を行う。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>6-7. 各自のテーマにおける論点、問題点について発表する。(中間発表) [講義・演習・質疑応答]</p> <p>8-11. 中間発表時の討論を踏まえて、解決のための専門的援助のありかたについてさらに文献調査、検討を行う。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>12-13. 各自のテーマに関する専門的援助のあり方について発表する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>14-15. 各自のテーマに関するレポートを作成する。 [講義・演習・質疑応答] (フィードバック方法)課題は個別に面接し行いフィードバックを行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、毎回のテーマに即した発表について、発表者は授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料および文献を熟読して出席する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業でのコメントを元に、発表者は学習の不足している点について補足学習を行い追加資料を作成する。参加者は授業内容をまとめ、追加資料を熟読する。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	ウィメンズヘルス看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30301
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	親準備世代ならびに周産期にある女性とその家族の健康問題と看護ニーズを分析し、課題解決に向けた看護介入の方法を探求する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与の方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 ライフサイクルの中で親準備世代と周産期を中心に、女性とその家族に提供されるケアの根拠を学ぶと共に、女性とその家族の健康問題やニーズの中から関心のあるテーマを選択し、課題解決に向けた専門的な看護介入の方法を探求する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①国内外のウィメンズヘルスケアに関連したガイドラインの概要とエビデンスを理解する。</p> <p>②親準備世代ならびに周産期にある女性と家族に関連した課題の中から早急に解決が必要なテーマを選択できる。</p> <p>③選択したテーマに関連した文献の批判的吟味ができる。</p> <p>④③より、介入可能な方法を検討することができる。</p>		

授業計画	<p>すべてゼミ形式で行う。</p> <p>1. ウィメンズヘルス看護学特論で学んだ理論や課題の中で親準備世代と周産期を中心に、関心のあるテーマを選定する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>2-6. テーマに関連した文献レビューを行い、ケアのエビデンスと課題を明確にする。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>7-8. 課題に対する看護介入の可能性と方法について発表し、討議する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>9-12. 討議で得られた意見をもとに課題解決に向けたより専門的な援助についてさらに文献レビューを行う。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>13-14. 各自のテーマに関する専門的な看護介入の方法について発表し、討議する。[講義・演習・質疑応答]</p> <p>15. 討議で得られた意見をもとにレポートを作成する。 [講義・演習・質疑応答] (フィードバック方法)課題は個別に面接し行いフィードバックを行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、毎回のテーマに即した発表について、発表者は授業前日までにレジメと主な参考文献コピーを参加者全員に配布する。参加者は配付資料および文献を熟読して出席する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 授業でのコメントを元に、発表者は学習の不足している点について補足学習を行い追加資料を作成する。参加者は授業内容をまとめ、追加資料を熟読する。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(60%)、プレゼンテーション(40%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	助产学特論	授業コード	23N30311
代表教員	田中 利枝	担当教員	
授業概要	助産の概念および助産の対象となる母子や家族の特性を理解し、助産師として専門的なケアについて学ぶとともに助産師としてのキャリア発達について考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識</p> <p>看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>《一般目標(GIO)》</p> <p>助産師の役割・対象の特性の歴史的变化から、専門職として期待されている助産師の役割と責務を考えることができる。</p> <p>《個別目標(SB0s)》</p> <p>①助産の概念、助産師の役割と機能について説明できる。(知識)</p> <p>②現代社会での助産師の対象について説明できる。(知識)</p> <p>③助産師としての専門的ケアについて説明できる。(知識)</p> <p>④今後の社会において、助産師として期待されている役割と責務を再考できる。(知識)</p>		
授業計画	<p>ゼミ形式で行う。</p> <p>1-2. 助産の概念、助産師役割と機能の歴史的変遷 [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>助産師の役割・機能の変化を知り、現在・未来の助産師の責務を考える。</p> <p>3-4. 現代社会の助産の対象とその特性 (合併症、先天疾患などの有疾患者) [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>現代社会の中での周産期における助産の対象の変化をとらえ、対象のニーズを検討する。</p> <p>5-6. 現代社会の助産の対象とその特性 (上記以外) [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>周産期以外の現代の助産の対象に対する、助産師としての役割・責務を考える。</p> <p>7-8. 周産期医療体制の中の助産 [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>生理的変化である助産の領域と周産期医療との関係を考える。</p> <p>9-10. 助産ケアの地域展開 [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>妊娠・分娩だけではない助産ケアの地域での展開を検討する。</p> <p>11-12. 国際母子保健 [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>世界の国々で母子保健が持つ意味・そのシステムなどを知り、日本の母子保健システムを考える。</p> <p>13-14. 助産技術とエビデンス [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>助産ケアをより安全に効果的に提供するために、助産ケアのエビデンスを探る。</p> <p>15. 専門職としての助産師の将来 [プレゼンテーション・グループワーク]</p> <p>看護職として、周産期医療の担い手として、助産の専門職としての必要性・将来性を検討する。</p> <p>(フィードバック方法) 検討課題に対するフィードバックは授業時に行い、できるだけ学生同士での解決を目指す。</p>		

準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータを整理し、検討し、資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間は 60 時間以上が必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート (75%)、プレゼンテーション (25%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	助産学演習	授業コード	23N30321
代表教員	田中 利枝	担当教員	
授業概要	助産の対象となる個人や集団が持つ健康課題に対し、具体的な健康教育方法を理解して、助産師としての専門的ケアの提供および開発に関わる能力を演習を通して修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>助産ケアの対象者の特性に合わせた健康教育を理解し、対象に提供できる能力を身につける。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①対象に合わせ、助産師の専門性を活かした健康教育を、計画することができる。（技能）</p> <p>②助産師としての必要な健康教育援助技術が修得できる。（技能）</p> <p>③専門職として提供する健康教育のあり方が再考できる。（知識）</p>		
授業計画	<p>ゼミ形式で行う。</p> <p>1. ガイダンス／助産学演習の進め方 [講義]</p> <p>2-4. 現代の出産事情に求められている個人的・社会的ニーズにおける健康教育について学び、ケアを考えることができる。[講義・演習]</p> <p>5-7. 日本の周産期医療の中で必要な健康教育について学び、ケアを考えることができる。[講義・演習]</p> <p>8-10. 多様な性に関する健康教育について学び、ケアを考えることができる。[講義・演習]</p> <p>11-13. 現代の子育て支援について学び、母子・家族に対するケアを考えることができる。[講義・演習]</p> <p>14-15. 学習してきたテーマにおける健康教育計画を発表する。[プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>（フィードバック方法）疑問・検討課題については、授業の時に学生同士での解決を目指す。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。次回テーマに関してのデータを整理し、検討し、資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義・演習内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は60分、復習は60分必要とする。</p> <p>☆時間外学習時間は60時間以上が必要であるため、不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	レポート（40%）、プレゼンテーション（20%）、課題（40%）		

備考

この科目は2単位です。

科目名	小児看護学特論 I	授業コード	23N30331
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	子どもを取り巻く社会や医療の現状と課題、子どもの生活環境を理解し、子どもと家族の発達および相互作用や健康に関する諸理論を探求する。さらに、我が国の文化や時代背景を踏まえて、これらの理論を活用して現象を把握し、その適用と課題や限界について学修する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>《学位授与方針との関連》</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>《一般目標(GI0)》</p> <p>①子どもの成長・発達、子どもと家族を理解するための諸理論や概念、看護援助に関する理論について修得する。</p> <p>②理論的枠組みを活用し、子どもと家族を理解する分析能力と論理的思考力を養う。</p> <p>《個別目標(SB0s)》</p> <p>①子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育の現状と課題について説明できる。</p> <p>②子どもと家族を理解するための主要な発達理論や概念について説明できる。</p> <p>③①～②をもとに、これらの理論や概念の小児看護実践への適用可能性や関連について検討することができる。</p> <p>④小児看護の現状と課題を検討し、子どもと家族への援助を考案することができる。</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス [講義・質疑応答] 授業の進め方、クリティークの説明</p> <p>2-3. 子どもと家族を取り巻く医療・保健・福祉・教育・法律の現状と課題 [プレゼンテーション・ディスカッション] 子どもと家族に関連する医療・保健・福祉・教育の現状を概観し、子どもと家族に起きている問題、小児看護学の動向と課題を探求する。</p> <p>4. 自我の発達の発達理論 [プレゼンテーション・ディスカッション] フロイト、エリクソンの発達理論の歴史的背景・概論と看護実践への活用を考える。</p> <p>5. 認知・思考の発達の発達理論 [プレゼンテーション・ディスカッション]</p>		

	<p>ピアジェ、ブルナーの発達理論について理論分析を行い、看護実践への活用を考える。</p> <p>6-7. 関係性の発達に関する理論 [プレゼンテーション・ディスカッション] ボウルビィ、エインスワース、ウィニコット、マーラー、バーナードの概説と看護実践への活用を考える。</p> <p>8-11. 子どもと家族をめぐる理論 [プレゼンテーション・ディスカッション] ストレス・コーピング、セルフケア、ソーシャル・サポート理論について理論分析を行い、看護実践への活用を考える。</p> <p>12-14. 小児期各期の成長・発達の理解に関する理論 [プレゼンテーション・ディスカッション] レジリエンス、自己効力感の定義・概念と看護実践への活用を考える。</p> <p>15. 小児看護実践における理論・概念活用の意義と課題 [プレゼンテーション・ディスカッション] 理論を活用して事例を検討し、小児看護における理論・概念の活用の意義を学ぶ。 (フィードバック方法)課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内に行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関するデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)、
備考	この科目は2単位です。

科目名	小児看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30342
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	小児看護学及び小児保健学領域で用いられる理論や知見を整理し、現在生じている小児看護上の課題とその支援策について探究する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 問題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』 発達途上にある子ども期の成長・発達の特徴と子どもの育ちを支える家族及び家族機能を理解するための諸理論を学ぶ。また、子どもの心身の健康支援に関する課題と支援の動向を把握し、今後の支援を提案できるようになる。</p> <p>『個別目標 (SBOs) 』 ①子どもの発達及び母子関係に関する理論家とその内容を整理できる。 ②子どもと家族の発達が促進される要因、支援策について説明できる。 ③国内における小児の健康問題とその支援についての動向を把握し、必要な支援について検討できる。</p>		
授業計画	1. ガイダンス [講義・質疑応答] 本講義の展開について説明する。 2. 小児看護学領域における倫理的配慮 [講義・質疑応答] 3-4. 子どもの成長・発達: 胎生期から第二次性徴までの形態と機能の変化の理解 [講義・質疑応答] 5. 子どもの成長・発達: 子どもの栄養と食育 [講義・質疑応答] 6. 子どもの成長・発達: 認知発達の特性に応じた支援について (発達障害含む) [講義・質疑応答] 7-8. 子どもと家族への支援: 家族発達理論、家族システム理論、家族看護過程 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 9-12. 子どもに関係する諸理論: ピアジェの認知発達理論、エリクソンの自我発達理論、ボウルビィの愛着理論、マーラーの分離固体化理論の理解 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]		

	<p>13. 在宅で療養する子どもと家族の支援：医療的ケア児、慢性疾患患児、特別支援学校での看護の役割</p> <p>14-15. 子どもをもつ家族への支援方策の検討とまとめ：健康行動理論（健康信念モデル、計画的行動理論、ソーシャルサポートの理解と活用性の検討）[講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p>
準備学習	<p>(予習) 各回ともそれぞれに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、考察とともに必要時はプレゼンテーション資料を作成の事。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点においては資料に基づき補足学習を実施する事。 ※すべての回で予習 30 分、復習 30 分が必要である。概ね週当たり 4 時間以上必要である。 時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート（50%）　プレゼンテーション（30%）　口頭試問（20%）
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	小児看護学演習Ⅰ	授業コード	23N30352
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	<p>健康問題をもつ子どもと家族へのエビデンスやこれまでの実践経験を活用し、子どもや家族へのケアの専門性について検討する。子どもの症状マネジメント、療養環境、在宅、社会生活、教育環境等、子どもと家族のニーズの充足に向けた看護援助、多職種との連携などの観点も包含する。また、子どもにまつわる倫理的問題についても理解を深め、問題提起とディスカッションにより小児看護のあり方について習得する。</p> <p>既存の知識との関連性を考えて、新たな知見を実践の中に応用できる基礎的能力を養う。</p>		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>組織的マネジメントの在り方を理解し、高度専門職業人に求められるマネジメント能力を発揮できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し看護・保健領域の高度専門職業人としての能力課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>① 健康問題をもつ子どもと家族への学問的関心のあるテーマを選出し、課題を明確化できる。</p> <p>② 問題に伴う問題の背景や分析、解決するための看護の役割を考察する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>① 健康問題をもつ子どもと家族の現状と諸問題を把握することができる。</p> <p>② 小児看護における倫理的問題について説明し、解決策を検討することができる。</p> <p>③ 障がいを持つ子どもの生活環境（入院、在宅、地域）を調整する必要性を説明し、多職種との連携を含めた援助方法を検討できる。</p> <p>④ 子どもの症状マネジメントのあり方を理解し、臨床経験に基づいた事例検討ができる。</p>		

授業計画	<p>1. ガイダンス[講義・質疑応答] 授業の進め方・健康問題をもつ子どもと家族の現状と課題</p> <p>2-5. 小児看護における様々な倫理的問題について文献検討及び事例検討 [プレゼンテーション・ディスカッション] 子どもの�利と自己決定権とインフォームド・コンセント（アセント）のあり方 親（保護者）が行なう意思決定の葛藤、重篤な障がいをもつ新生児の治療継続または差し控え、子どもの臓器移植を含めた移植医療における問題、子どもの権利擁護に対する医療者の倫理的葛藤、臨床現場における日常的な倫理的な配慮</p> <p>6-7. 健康問題をもつ子どもの苦痛に関する文献検討および援助 [プレゼンテーション・ディスカッション] 苦痛の緩和、症状マネジメントを踏まえた事例検討</p> <p>8-9. 健康問題をもつ子どもと家族を取り巻く療養環境に関する文献検討および援助 [講義・ディスカッション] 慢性疾患、障がいがある子どもと家族への、在宅移行・退院支援・復学支援に向けた環境 調整に関する文献検討</p> <p>10-12. 健康問題をもつ子どもへの看護実践における多職種連携に関する文献検討およ び援助 [プレゼンテーション・ディスカッション] 医療的ケア児や障がいのある子どもとその家族の社会生活（インクルーシブ教育・災 害時における対策を含め） への援助と多職種連携</p> <p>13-14. 健康問題をもつ子どもと家族の抱える諸問題に関する文献検討および援助 [プレゼンテーション・ディスカッション] 終末期にある子どもと家族（子どもの終末期ケアと延命治療の現状と問題等）被虐待 児とその家族に関する文献検討</p> <p>15. 小児看護の役割と今後の課題の検討・考察 [プレゼンテーション] (フィードバック方法) 課題、プレゼンテーションに対するフィードバックは講義内 に行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を 実施すること。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを 利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	レポート(70%)、プレゼンテーション(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	小児看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30361
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	子どもと家族の健康問題を多角的に捉え、子どもと家族への適切な保健及び健康回復支援の方策について検討するために、研究報告や実践報告を整理し、支援の方向性や研究課題につながる研究視点の基礎を養う。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 問題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』 子どもと家族に対する健康支援のために必要な知識および近年の研究動向の把握から関心のあるテーマについて学びを深める。</p> <p>『個別目標 (SBOs) 』</p> <p>①対象に合わせた看護の方策を実践報告や研究論文の抄読によって考察できる ②子どもと家族の QOL 向上の支援について検討することができる。 ③小児看護で関心あるテーマの文献検討の実践から研究動向や課題を整理できる。</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス 授業の進め方について説明 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>2. 母子保健施策、発達障害者・障碍者支援と課題 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>3-4. 文献クリティック、文献検討について [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>5-7. アレルギー疾患の看護実践および研究動向 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>8-10. 発達障害をもつ子どもとその家族支援および研究動向 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>11-13. 思春期以降の心身の問題への支援と研究動向 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p>		

	<p>14. より深めたいテーマの看護と研究動向 [プレゼンテーション・質疑応答] 15. まとめ 振り返りまとめ実施 [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p>
準備学習	<p>(予習) 各回ともそれぞれに関連する基礎的な事項を学習しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、考察とともに必要時はプレゼンテーション資料を作成の事。 (復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点においては資料に基づき補足学習を実施する事。 ※すべての回で予習 30 分、復習 30 分が必要である。概ね週当たり 4 時間以上必要である。 時間外学習時間（予習復習など）は 60 時間以上が必要であるため休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション (50%) 口頭試問 (50%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	地域看護学特論 I	授業コード	23N30371
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	公衆衛生看護活動に必要とされる概念・理論、技術について理解し、効果的な活動のあり方と保健師の専門性について考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>個人・家族、集団、地域への看護の理論と方法を理解する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①個人・家族、集団、地域への看護ケアの方法について関連する概念・理論に基づき理解できる。</p> <p>②住民との協働によるコミュニティへの支援方法について、関連理論に基づき理解できる。</p>		
授業計画	1. ガイダンス/地域看護学の概念枠組み [講義・質疑応答] 2. 公衆衛生看護学の概念枠組み(公衆衛生看護学と地域看護学の定義を巡って) [講義・質疑応答] 3.-4. 公衆衛生看護の対象と機能 [講義・質疑応答] 5-9. 個人への相談支援の理論と方法(ストレンジスモデル)(1)-(5) [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 10. 家族支援の理論と方法 [講義・質疑応答] 11-14. 地域支援の理論と方法(コミュニティ・アズ・パートナーモデル)(1)-(4) [プレゼンテーション・講義・質疑応答] 15. まとめ [プレゼンテーション・討議] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。		

	<p>(予習) 1-15. 各回の発表者は自分の担当セクションについて講義時間にプレゼンテーションできるようレジメなどを準備しておくこと。発表者以外の学生は関連する文献、テキストの該当箇所を熟読しておくこと。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(40%)、口頭試問(20%)、レポート(40%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	地域看護学特論Ⅱ	授業コード	23N30381
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	地域保健行政の基盤となる、近年の公共性の議論について理解し、住民自治を具現化する諸条件を探求する。さらに公害や精神保健をとりあげ、疾病とステイグマについて公共性の概念から照射し、公衆衛生看護活動の基盤となる倫理を考察する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>公共性からとらえた公衆衛生看護活動の原則と倫理的な課題への判断を理解する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①公共性の議論の理論的背景を理解できる。</p> <p>②地域で進行している現状の課題を個の課題から公共性の視点から捉え分析できる。</p> <p>③公衆衛生看護活動で直面する倫理的課題を判断し、解決に向けた思考を展開できる。</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス/公共性をめぐる議論の動向 [講義・質疑応答]</p> <p>2. 公共哲学の諸潮流(1) (ハーバーマス、共同体、モラルサイエンスの公共哲学) [講義・質疑応答]</p> <p>3-4. ハンナアーレントの公共性の視点と論考 [講義・質疑応答]</p> <p>5-7. 「公共性」の概念からみた疾病とステイグマ(1)-(3) (水俣病) [講義・質疑応答]</p> <p>8-10. 「公共性」の概念からみた疾病とステイグマ(4)-(6) (ハンセン病) [講義・質疑応答]</p> <p>11-12. 「公共性」の概念からみた疾病とステイグマ(7)-(8) (精神障害) [講義・質疑応答]</p> <p>13-14. 公衆衛生看護活動における倫理的課題とその検討(1)-(2) [演習]</p> <p>15. まとめ [プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. テーマに即した関連文献およびテキストの指定箇所を読み、レジメを準備しておくこと。発表者はプレゼンテーションの準備をしておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p>		

	☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	地域看護学演習 I	授業コード	23N30392
代表教員	大木 幸子	担当教員	市古 太郎
授業概要	公衆衛生看護活動において必要とされる概念・理論、コンピテンシーやスキルについて、事例演習などを通じて理解を深める。それらをとおして、保健師の専門性に求められる視点・態度を探究する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>地域看護実践において個人から地域にいたる各レベルでの支援技術を養う。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①地域看護実践における個人・家族への支援技術の特性を理解できる。 ②地域看護実践における地域診断及び地域活動への計画立案ができる。 ③地域看護実践における課題解決過程から施策化へ展開することができる。</p>		
授業計画	1. ガイダンス/公衆衛生看護における個人・家族への支援技術 [講義・質疑応答] (大木) 2. インターク相談支援の技術 [講義・質疑応答] (大木) 3-8. 個別支援技術 (個別支援事例における支援技術の検討) (1)-(6) [演習] (大木) 9-12. 地域診断のための技術と GIS の活用(地域課題の抽出) (1)-(4) [演習] (大木) 13-14. 地域への支援技術(地域課題の解決にむけた支援計画の立案) (1)-(2) [演習] (大木) 15. まとめ [プレゼンテーション] (大木) (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。		

	<p>(予習) 1-15. これまでの活動でかかわった事例について振り返り、自らのアセスメントや支援のよかった点、さらに工夫ができたと思う点をレポートにまとめておくこと。また、サブテキスト本「無名の語り」の指定の章を読み、保健師が展開している支援技術を抽出して所定のレポートにまとめておくこと。9回目以降は、地区をとりあげて、地域診断のための情報を収集、分析内容をまとめておくこと。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、口頭試問(30%)、レポート(40%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	地域看護学演習Ⅱ	授業コード	23N30402
代表教員	大木 幸子	担当教員	高久陽介、岩橋 恒太
授業概要	<p>HIV 感染症を取り上げて、地域における個人・家族・集団・地域の健康課題の特性及び、その効果的支援方法について探究する。また、HIV 感染症を巡る健康課題の特性を sexual health 及び socially Vulnerable の視点を踏まえて理解する。それらをとおして、予防から陽性者支援までの包括的対策に関する効果的な方法論及び支援技術について検討する。</p>		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>HIV/エイズをめぐる健康課題を個別支援及び地域支援の双方の視点をもって理解する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①セクシュアリティの多様性について説明できる。 ②HIV 感染症をめぐる健康課題の特性を説明できる。 ③HIV 陽性者の地域生活を支援するために必要な個別支援技術の基礎的能力を修得する。</p>		

授業計画	<p>1. ガイダンス/HIV 感染症をめぐる動向 [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>2. HIV 感染症対策の変遷と課題 [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>3. HIV 感染症の病態と治療 [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>4-5. Sexuality と Sexual health (1)-(2) [講義・演習] (大木)</p> <p>6-7. HIV 陽性者の生活課題と支援(1)-(2) [講義・質疑応答] (大木)</p> <p>8. HIV 感染症と社会構造:Vulnerability と Stigma [講義] (高久)</p> <p>9. HIV 陽性者による政策形成への参加 [講義・質疑応答] (高久)</p> <p>10-11. HIV 対策のストラテジー:コミュニティ主導による HIV 対策 [講義・質疑応答] (岩橋)</p> <p>12. HIV 対策のストラテジー:当事者視点による予防・相談・検査・ケアの包括的展開 [演習] (岩橋)</p> <p>13-14. HIV 検査・相談における支援方法 [演習] (大木)</p> <p>15. まとめ [プレゼンテーション] (大木)</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回、発表者は、セクシュアリティ及びHIV 対策、エイズ看護に関する文献を読み、内容をレジメにまとめておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(70%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	在宅看護学特論	授業コード	23N30412
代表教員	柴崎 美紀	担当教員	
授業概要	国内外の在宅看護に関する制度・理論・研究の動向について、ゼミ形式で学習する。また、健康障がいを持つ地域で生活する人々とその家族への支援について関連文献を収集・分析し、討論を通じて在宅における専門的な援助について学ぶ。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2)看護・保健領域の高度専門職業人としての知識</p> <p>看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>①在宅看護に必要な制度・理論について知り、研究の動向について理解する。</p> <p>②在宅療養者とその家族に必要な援助と今後の方向性について説明できる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①在宅医療の現行制度における訪問看護をはじめとする在宅ケアの実態を把握することができる。(知識)</p> <p>②在宅看護に特徴的な看護過程、看護展開を考察することができる。(技能)</p> <p>③在宅看護におけるケアの質改善方法について討議することができる。(態度・習慣)</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 在宅看護の関連法規 [講義・質疑応答] 訪問看護に関する現行制度について理解する。 2. 在宅ケアのシステム・政策論 [講義・質疑応答] 訪問看護に関する在宅ケアシステム、在宅医療政策について理解する。 3. 在宅ケアに関わる基礎的理論 [講義・質疑応答] 在宅ケア対象者への保健医療福祉介護に関する総合的なケアの理論を理解する。 4. 在宅看護における研究の動向(1) [講義・質疑応答] 訪問看護、在宅ケアにおける国内外の研究の動向を理解する。 5. 在宅看護における研究の動向 (2) [プレゼンテーション] 国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。 6. 在宅看護における研究の動向 (3) [プレゼンテーション] 国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。 7. 在宅看護における倫理的課題 [講義・質疑応答] 在宅看護における倫理的課題について理解する。 8. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護(がん) [講義・質疑応答] [グループワーク] 在宅におけるがん看護を理解し、事例への適用を考察する。 9. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護(認知症) [講義・質疑応答] [グループワーク] 在宅における認知症看護を理解し、事例への適用を考察する。 10. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護(難病) [講義・質疑応答] [グループワーク] 在宅における難病看護を理解し、事例への適用を考察する。 11. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護(精神疾患) [講義・質疑応答] [グループワーク] 		

	<p>在宅における精神疾患看護を理解し、事例への適用を考察する。</p> <p>12. 健康課題をもつ療養者と家族への在宅看護(小児) [講義・質疑応答] [グループワーク] 在宅における小児看護を理解し、事例への適用を考察する。</p> <p>13. 在宅における専門職の人材育成 [講義・質疑応答] 在宅における専門職の人材育成の動向を理解する。</p> <p>14. 地域連携とチームケア [講義・質疑応答] 在宅ケアにおける職種間連携と病院?地域間連携の実態を理解する。</p> <p>15. 受講生によるまとめのプレゼンテーション [プレゼンテーション] 各自が体験した事例をもとにテーマを設定し、そのテーマに沿って資料を作成し発表と討論を行う。 (フィードバック方法)フィードバックは次の授業時に行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	在宅看護学演習	授業コード	23N30422
代表教員	柴崎 美紀	担当教員	
授業概要	在宅療養者とその家族に対する援助方法について文献及び演習を通して理解し、専門的なケアの提供のための能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(2)看護・保健領域の高度専門職業人としての知識</p> <p>看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』</p> <p>①在宅看護活動について、各自の関心あるテーマを選定し、課題を明確化できる。</p> <p>②課題を分析し、解決するための看護の果たすべき役割について考察する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①国内外の研究から、訪問看護をはじめとする在宅ケアの実態と、現状における課題を把握することができる。(知識)</p> <p>②医療依存度の高い在宅看護を実践する訪問看護ステーションの実践から、在宅療養者および家族を多角的に捉える視点を深め、看護上の課題を把握することができる。(技能)</p> <p>③在宅療養者および家族の自立と QOL を促進するための看護実践のあり方、問題解決方法について考察し、提言できる。(知識) (態度・習慣)</p>		
授業計画	<p>1. わが国における在宅看護の現状と課題 [講義・質疑応答]</p> <p>在宅看護における現状と課題から、自身の課題について検討する。</p> <p>2. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(1) [演習]</p> <p>学生各自が実践中に体験した事例に基づいた関心テーマを選定し文献レビューを行う。</p> <p>3. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(2) [演習]</p> <p>学生各自が実践中に体験した事例に基づいた関心テーマを選定し文献レビューを行う。</p> <p>4. 選択したテーマに関する文献レビューと事例展開(3) [プレゼンテーション]</p> <p>関心テーマに関するプレゼンテーションを行う。</p> <p>5-9. 在宅看護実践活動の見学・参加 [演習]</p> <p>選択した関心テーマに関する看護実践活動の見学・参加から、在宅看護活動の機能と役割について学ぶ。</p> <p>10-13. 在宅看護実践活動の評価 [グループワーク・プレゼンテーション]</p> <p>実践活動を評価し、課題を考察する。</p> <p>14-15. 在宅看護の役割についての検討・考察 [プレゼンテーション]</p> <p>(フィードバック方法)フィードバックは次の授業時に行う。</p>		

準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	口頭試問(40%)、プレゼンテーション(20%)、レポート(40%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	家族看護学特論	授業コード	23N30432
代表教員	佐藤 ユキ子	担当教員	
授業概要	家族看護学の歴史的変遷および家族看護学における諸理論を理解するとともに、家族と家族支援の基盤となる知識・技法を学習し、家族発達の各期における実践方法を学ぶ。また、現代における多様な家族を対象とした研究の動向を概観し、家族看護の研究の特徴と課題について考察する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GI0)』 家族看護学の目的や動向、諸理論やアセスメントモデルについて理解できる。また事例を通して家族の健康課題を捉え、多角的視点で家族援助のあり方を考察することができる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』 ①家族看護学の定義、目的、評価、援助方法など家族看護の基本的な考え方を理解できる。 ②家族看護学における諸理論、アセスメントモデルについて理解することができる。 ③事例を通して、家族の健康や生活について、健康課題を明確にことができる。 ④家族の健康課題に対し、多角的な視点で援助方法を検討することができる。 ⑤多様な家族を対象とした研究の動向と特徴および課題を検討することができる。</p>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 家族看護の理論① [講義・質疑応答] 家族の定義や家族看護学の目的について学ぶ。 2. 家族看護の理論② [講義・質疑応答] 家族の動向、機能および家族看護学の概念について学ぶ。 3. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル① [講義・質疑応答・プレゼン] 家族アセスメントモデル（フリードマン、カンガリーなど）について学ぶ。 4. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル② [講義・質疑応答・プレゼン] 家族アセスメントモデル（家族生活力量モデル、渡辺式など）について学ぶ。 5. 家族を理解するための諸理論とアセスメントモデル③ [講義・質疑応答・プレゼン] 家族アセスメントモデル（家族エンパワーモデル）について学ぶ。 6. 家族看護のプロセス [講義・質疑応答] 家族の全体像の描写と家族看護過程について学ぶ。 7. 家族看護の実践① [講義・質疑応答・プレゼン] 新しい家族の誕生と乳児を持つ家族への援助について検討する。 8. 家族看護の実践② [講義・質疑応答・プレゼン] 		

	<p>重症心身障がい児をもつ家族への支援について検討する。</p> <p>9. 家族看護の実践③ [講義・質疑応答・プレゼン] 高齢者の在宅介護の家族への支援について検討する。</p> <p>10. 家族看護の実践④ [講義・質疑応答・プレゼン] 救急医療・集中治療の場における家族への支援について検討する。</p> <p>11. 家族看護の実践⑤ [講義・質疑応答・プレゼン] 精神疾患を持つ患者の家族への支援について検討する。</p> <p>12. 家族看護の実践⑥ [講義・質疑応答・プレゼン] 被虐待児と親への支援について検討する。</p> <p>13. 家族看護の実践⑦ [講義・質疑応答・プレゼン] 終末期にある人と家族への支援について検討する。</p> <p>14. 家族看護の実践⑧ [講義・質疑応答・プレゼン] 多様な家族の暮らしと支援について検討する。</p> <p>15. まとめ [講義・質疑応答・プレゼン] 講義を通して、自分なりに考える家族看護のあり方について考察する。 (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関するデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 60 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり、4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習・復習など）は、60 時間以上必要であるため、不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(40%)、レポート(60%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別講義	授業コード	23N30451
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	<p>公衆衛生看護技術にかかる理論をとりあげ、ミクロ・メゾ・マクロを対象とする支援技術に関する概念を理解する。また、個人・家族の意思決定やコミュニティでの合意形成にかかる公衆衛生看護活動の機能と支援方法を活動事例及び文献より探求する。さらに公衆衛生看護学の近接学問領域における技術体系を踏まえ、個人・家族、組織、コミュニティ、社会システムを対象とする公衆衛生看護技術とその体系に関する概念・理論を理解する。</p>		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(3) 看護・保健領域の高度専門職業人としての技術 看護実践者および高度実践看護師（専門看護師）として必要な技術を修得し、実践力を高めることができる。</p> <p>(4) 看護・保健領域の高度専門職業人としての臨床判断力やマネジメント力 看護の対象となる対象理解、病態理解に基づき、臨床的判断力を修得し医療メンバーとしての役割を果たすことができる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>コミュニティと人々の健康との関連を分析するための研究的視点を養う。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①コミュニティをめぐる理論とその背景を理解できる。</p> <p>②コミュニティと人々の健康との関連に関する理論や最近の知見を説明できる。</p>		

授業計画	<p>1. ガイダンス/公衆衛生看護技術およびその構造にかかわる概念 [講義・質疑応答]</p> <p>2-3. 個人・家族への公衆衛生看護技術 [講義・質疑応答]</p> <p>4. コミュニティレベルでの公衆衛生看護技術 [講義・質疑応答]</p> <p>5. 社会システムレベルでの公衆衛生看護技術 [講義・質疑応答]</p> <p>6-7. コミュニティにおける健康危機管理における公衆衛生看護活動の展開方法(1)-(2) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>8-9. コミュニティ・エンパワメントと研究動向(1)-(2) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>10-11. ソーシャルキャピタルと研究動向(1)-(2) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>12-13. コミュニティとの協働・パートナーシップと研究動向(1)-(2) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>14-15. 公衆衛生看護技術の体系と研究動向(1)-(2) [プレゼンテーション・講義・質疑応答]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 発表者は、各回のテーマに即した文献をレビューしレジメを準備しておくこと。 また、前日までにレジメと主な文献を参加者に配布しておくこと。 参加者は配布されたレジメと文献を熟読しておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり4時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は60時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(30%)、レポート(40%)、口頭試問(30%)
備考	この科目は2単位です。

科目名	特別講義	授業コード	23N30462
代表教員	佐藤 ユキ子	担当教員	
授業概要	慢性の病をもつ人および家族の多様で複雑な状況をとらえ、療養支援に必要な概念、理論について理解を深める。さらに健康レベルに応じた質の高い生活を維持していくための支援方法について事例や関連文献、書籍より探求する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>慢性の病をもつ人が質の高い生活を維持していくための具体的療養支援について検討する。</p> <p>『個別目標 SB0s』</p> <p>①慢性の病をもつ人々の行動、心理を理解する視点で看護展開できる。</p> <p>②慢性の病をもつ人の多様な病期における適切な支援方法を選択するための概念、理論、技法を説明できる。(知識)</p> <p>③各概念・理論の臨床応用について自身の実践事例と結びつけて検討し、慢性の病をもつ人々と家族への看護のあり方について考えを発表、記述できる。(知識・態度)</p>		
授業計画	<p>1. ガイダンス／慢性疾患特有の複雑で困難な問題と背景 [講義・質疑応答] 成人期における慢性疾患（循環器系・呼吸器系・糖尿病・慢性腎不全・脳神経系）の治療と経過、社会背景について学び、支援の必要性について検討する。</p> <p>2. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解(1) [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 「慢性疾患の病みの軌跡」を読み、慢性の病をもつ人の生活体験を理解し、病気をもって生活すること、病気を管理することについて考察する。</p> <p>3. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解(2) [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 「慢性疾患の病みの軌跡」理論の実践への適用について検討する。</p> <p>4-5. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解と支援方法(1)(2) [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 看護を考えるうえで重要となる概念・理論（コンプライアンス/アドヒアランス/トランセセオレティカルモデル）について学び、実践への適用について検討する。</p> <p>6-7. 慢性の病をもつ人の生活体験の理解と支援方法(3)(4) [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 看護を考えるうえで重要となる概念・理論（セルフモニタリング/セルフマネジメント/ヘルスプロモーション）について学び、実践への適用について検討する。</p> <p>8. 慢性の病をもつ家族が抱える問題と支援方法 [講義・プレゼンテーション・質疑応答] 家族支援の文献を選定し、現状と課題について検討する。</p> <p>9-10. 慢性期看護における研究の動向(1)(2) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p>		

	<p>国内外の文献をもとに各自がテーマを選定しレビューを行う。</p> <p>11-13. 慢性の病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法(1)-(3) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>自己の関心領域(循環器系・呼吸器系・糖尿病・慢性腎不全・脳神経系)での文献・事例を検討する。</p> <p>14. 慢性の病をもつ人の変化する健康レベルに応じた支援方法(4) [講義・プレゼンテーション・質疑応答]</p> <p>エンドオブライフケアについての文献・事例を検討する。</p> <p>15. 受講生によるまとめ [プレゼンテーション]</p> <p>自己が体験した事例をもとにテーマを設定し資料を作成し、発表と討議を行う。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回のテーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。また、プレゼンテーション時のコメント内容は追加・修正しておくこと。 ※全ての回、予習は 60 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>
評価方法	プレゼンテーション(40%)、レポート(60%)
備考	この科目は 2 単位です。

科目名	特別演習（がん看護）	授業コード	23N30472
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	特定の課題に沿った文献検討を行い課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①自らの関心と実習における学びをもとに研究課題を明確にできる ②関連する文献を適切に選択し、課題研究の一連のプロセスを説明できる ③課題研究論文を作成することができる。</p>		
授業計画	<p>下記内容を合計 15 回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。</p> <p>1-5. 各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。[演習]</p> <p>6-10. 課題研究のテーマを明確にする。[演習]</p> <p>11-15. CNS 実習における学習から課題に基づき考察し論文を作成する。[演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。また、次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別演習（クリティカルケア 看護）	授業コード	23N30482
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	特定の課題に沿った文献検討を行い、課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①自らの関心と実習における学びをもとに研究課題を明確にことができる。</p> <p>②関連する文献を適切に検討することができる。</p> <p>③研究の一連のプロセスが説明できる。</p> <p>④課題論文を作成することができる。</p>		
授業計画	<p>下記内容を合計 15 回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。</p> <p>1-5. 関連文献の検討 [演習] 各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。</p> <p>6-10. 課題研究テーマの明確化 [演習] 課題研究のテーマを明確にする。</p> <p>11-15. 課題に基づく考察と論文作成 [演習] CNS 実習における学習から課題に基づき考察し、論文を作成する。 (フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回のテーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別演習（精神看護）	授業コード	23N30492
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	特定の課題に沿った文献検討を行い、課題論文を作成し、研究する基礎的能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>各専門領域における特定の課題に基づいて論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>下記内容を合計 15 回の講義で行うが、受講者の状況に応じて各内容の回数を調整する。</p> <p>1-5. 各領域における特定の課題に応じた文献レビューを行う。(5回) [演習]</p> <p>6-10. 課題研究のテーマを明確にする。(5回) [演習]</p> <p>11-15. CNS 実習における学習から課題に基づき考察し、論文を作成する。(5回) [演習・プレゼンテーション]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-15. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-15. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 30 分、復習は 30 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 60 時間以上が必要であるため不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 2 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1A1 / 23N3T1A2
代表教員	浅沼 奈美	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を行い、調査・実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』 修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。</p>		
授業計画	<p>1-10. 先行研究から研究課題の明確化し研究計画書の作成(10回) [演習]</p> <p>11-20. 研究方法の選定及びデータ収集と結果分析(10回) [演習]</p> <p>21-30. 考察及び論文作成(10回) [演習・プレゼンテーション] (フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 次回テーマに関してのデータ整理、検討し資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。 ※全ての回、予習は30分、復習は30分必要とする。 ☆概ね週当たり4時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は120時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は4単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1B1 / 23N3T1B2
代表教員	大木 幸子	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>各自の関心課題についての研究論文を作成する過程をとおして、研究への実践力を修得する。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①自らの関心を研究的問い合わせと発展させることができる。</p> <p>②研究テーマの絞り込みから研究計画の立案、研究実施の過程を遂行できる。</p> <p>③研究の遂行にあたっての倫理的に適切な方法を判断、選択できる。</p>		
授業計画	<p>研究の計画及び実施、論文作成の進行に応じて、検討課題を発表し討議する。</p> <p>1-4. 研究課題の検討と選考研究のクリティーク [演習]</p> <p>5-8. 研究方法及び倫理的問題の検討 [演習]</p> <p>9-14. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>15-18. 研究データの収集と分析方法の検討 [演習]</p> <p>19-22. 研究結果の分析 [演習]</p> <p>23-26. 研究結果の考察及び課題の検討 [演習]</p> <p>27-30. 研究論文のまとめ方 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 関連した先行研究のレビュー、研究計画の作成、究課題への取り組み過程のプレゼン資料作成を行うこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 講義内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1C1 / 23N3T1C2
代表教員	加賀谷 聰子	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を行い、調査・実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>修士論文作成の過程を通して研究能力を向上させる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①関心に基づいて適切に文献検索を行い、研究目的を明確にできる。</p> <p>②研究計画書を作成し、計画に沿って研究を進めることができる。</p> <p>③結果を分析し、論文にまとめることができる。</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題の焦点化と研究課題の抽出 [演習] 関心のあるテーマの先行研究をクリティークし、研究課題を明確にしていく。</p> <p>6-10. 研究計画書の作成 [演習] 研究方法や倫理的問題を検討した上で、研究計画書を作成する。</p> <p>11-15. データ収集 [演習] データ収集にまつわる具体的な課題について検討した後、データ収集を行う。</p> <p>16-20. データ分析 [演習] データ分析方法を再度検討し、データ分析を実施する。</p> <p>21-25. 結果・考察の検討 [演習] 分析結果を整理し、考察内容を検討する。</p> <p>26-30. 論文作成 [演習] 論文の作成要領に従って論文を作成する。</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習) 1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。</p> <p>(復習) 1-30. 各回の内容をまとめ、学習の不足している点については資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。 ☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		

備考

この科目は4単位です。

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1D1 / 23N3T1D2
代表教員	中島 恵美子	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。</p> <p>『個別目標(SB0s)』</p> <p>①関心に基づき文献検討を行い、研究目的を明確にできる。</p> <p>②研究計画書を作成し、計画に沿って研究の進行ができる。</p> <p>③結果を論文にまとめることができる。</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習]</p> <p>6-10. 研究計画書作成 [演習]</p> <p>11-15. データ収集 [演習]</p> <p>16-20. データ分析 [演習]</p> <p>21-25. 結果、考察 [演習]</p> <p>26-30. 論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておく。</p> <p>また、次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1E1 / 23N3T1E2
代表教員	柴崎 美紀	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]</p> <p>7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、 日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1F1 / 23N3T1F2
代表教員	勝又 里織	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討し、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]</p> <p>7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1H1 / 23N3T1H2
代表教員	佐々木 裕子	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、文献検討を踏まえて研究課題を科学的に探求する。研究テーマの明確化、研究計画書の作成、データ収集から論文作成までの一連の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(2) 看護・保健領域の高度専門職業人としての知識 看護ケアの質の向上を目指し、高度専門職業人としての知識を修得し判断、実践し発展させることができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(G10)』 研究課題に基づいて修士論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビュー [演習]</p> <p>7-12. 研究課題の明確化 [演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>19-24. データ収集、分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-26. 研究結果の考察と今後の課題 [演習]</p> <p>27-30. 研究論文のまとめ方 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 研究課題に関連した先行研究のレビュー、研究計画書の作成、データ収集から論文作成までのスケジュールを明確にしておく。授業計画に基づき、毎回、プレゼンの資料を準備をしておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業時のコメントに応じて不足している点を補っておくこと。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1I1 / 23N3T1I2
代表教員	佐藤 ユキ子	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。[演習]</p> <p>7-12. 研究テーマを明確にする。[演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-30. 研究結果からの考察と今後の課題の検討、論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭諮詢(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1J1 / 23N3T1J2
代表教員	田原 美香	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討をし、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(5) 課題解決のための広い視野と学際的識見 看護・保健領域における諸課題を広い視野と学際的な視点でとらえ、他の学問領域の視点から見ることの重要性を理解し、課題を解決することができる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビューを行う。 [演習]</p> <p>7-12. 研究テーマを明確にする。 [演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、 日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1K1 / 23N3T1K2
代表教員	藤田 千春	担当教員	
授業概要	専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討および研究計画書を作成し、調査、分析、論文作成の過程を通して研究する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 ・看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。またプレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』</p> <p>自己の研究課題に基づいて学術論文を作成する。</p>		
授業計画	<p>1-6. 研究課題に応じた文献レビュー [演習]</p> <p>7-12. 研究テーマの明確化 [演習]</p> <p>13-18. 研究計画書の作成・子どもを対象にした倫理的配慮 [演習]</p> <p>19-24. 研究データ収集と分析、結果のまとめ [演習]</p> <p>25-30. 研究結果からの考察と課題の検討 [演習]</p> <p>(フィードバック方法)課題に対するフィードバックは次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 修士論文作成にむけたタイムスケジュールを作成し、それに基づいてゼミの内容、 日程を調整する。毎回のゼミはそれに基づいて行う。ゼミ前日までにレジメと参考文献(必要時)を指導教員に提出する。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 授業でのコメントを元に、不足している点について補足学習を行い、タイムスケジュールに基づき研究をすすめる。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間(予習復習など)は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文(90%)、口頭試問(10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1M1 / 23N3T1M2
代表教員	岩崎 孝子	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を行い、調査・実験などによりデータを収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を修得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標(GIO)』</p> <p>修士論文の作成を通して、研究能力を向上させる。</p> <p>『個人目標(SB0s)』</p> <p>①関心のある事柄を、文献検討を通して研究の問い合わせに発展させることができる。</p> <p>②研究目的を明らかにし、研究計画書を作成、計画に沿って研究を進めることができる。</p> <p>③結果を分析し、論文にまとめることができる。</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題の焦点化と研究課題の抽出 [演習]</p> <p>6-10. 研究計画書の作成 [演習]</p> <p>11-15. データ収集 [演習]</p> <p>16-20. データ分析 [演習]</p> <p>21-25. 結果・考察の検討 [演習]</p> <p>26-30. 論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは、次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。また、次回テーマに関して整理、検討し、プレゼンテーション資料の準備をしておくこと。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 学習の不足している点は資料に基づき補足学習を実施すること。</p> <p>※全ての回、予習は 60 分、復習は 60 分必要とする。</p> <p>☆概ね週当たり 4 時間以上必要である。</p> <p>☆時間外学習時間（予習復習など）は 120 時間以上が必要であるため不足分は休暇などをを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文 (90%)、口頭試問 (10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		

科目名	特別研究	授業コード	23N3T1N1 / 23N3T1N2
代表教員	米山 雅子	担当教員	
授業概要	各自の専門分野における研究方法を学び、研究テーマに沿った文献検討を調査、実験などにより収集し、論文作成の過程を通して学術論文として公表する能力を習得する。		
学位授与方針の関連 学習目標	<p>『学位授与方針との関連』</p> <p>(1) 高い倫理観と国際的視野 看護領域における様々な課題について高い倫理観を持ち、多様な価値観や異文化を理解したうえで、研究を遂行できる。</p> <p>(6) 研究遂行能力 看護領域における課題について、研究計画の立案・遂行し論文が作成できる。また、プレゼンテーション能力を身につけ、研究内容を発表することができる。</p> <p>『一般目標 (GIO) 』</p> <p>修士論文作成の過程から研究能力を向上させる。</p> <p>『個人目標 (SB0s) 』</p> <p>①関心のある事柄を、文献検索を通して研究の問い合わせに発展させることができる。</p> <p>②研究目的を明らかにし、研究計画書を作成、計画に沿って研究を進めることができる。</p> <p>③研究を分析し、論文にまとめることができること。</p>		
授業計画	<p>1-5. 問題点の焦点化と研究課題の抽出 [演習]</p> <p>6-10. 研究計画書作成 [演習]</p> <p>11-16. データ収集 [演習]</p> <p>16-20. データ分析 [演習]</p> <p>21-25. 結果・考察 [演習]</p> <p>26-30. 論文作成 [演習]</p> <p>(フィードバック方法) 課題に対するフィードバックは、次回の講義で行う。</p>		
準備学習	<p>(予習)</p> <p>1-30. 各回とも、それぞれのテーマに関連する基礎的な事項を学習し直しておくこと。 また、次回テーマに関してのデータ整理、検討をし資料を作成すること。</p> <p>(復習)</p> <p>1-30. 学習の不足している点は、資料に基づき補足学習を実施すること。 ☆概ね週 4 時間以上必要である。 ☆時間外学習時間（予習復習など）は、120 時間以上が必要であるため、不足分は休暇などを利用して復習しておくこと。</p>		
評価方法	論文 (90%)、口頭試問 (10%)		
備考	この科目は 4 単位です。		